

救護第25班 5月7日～5月14日 看護師・大町 麻衣



熊本の派遣チームがノロウイルスにかかった直後だったので、引継ぎが十分できませんでした。カルテも前の班、その前の班のが混在していて、その整理から始めました。



救護活動は、まず鳴瀬支所の診療所は私たちが最後で、「終わります」の挨拶に行きました。その後は牡鹿半島の巡回。自衛隊ともミーティングを重ね、なるべく終息する方向で避難所を回りました。期間中、同じところも多くて2回の訪問でした。

避難所は小学校や公民館で、急性期はすぎていて、狭い部屋に何人も寝ている状況は解消されていました。私たちは床ずれや褥瘡がでていないかなど見て回りました。車いすで避難した方や、震災前から寝たきりの方もいらっしゃいました。

牡鹿半島は、平地は家がなくなっていて、道路も片側車線が崩れていたり亀裂が入っていたり。当初避難所になっていたドライブインも、駐車場は斜めになって落ちている箇所や亀裂が走っていました。このドライブインは営業を再開していて、きっと私たちが第1号の客だったんじゃないかな。

急性期は人命救助第一で動きますが、慢性期には班の交代があり、受診された方に「他所から来たチームの診断と違う」と不信感をもたれたり、救援は難しいと思いました。特に救護を撤収していかなければならないし、医療を他

の機関に回すことしかできませんでした。